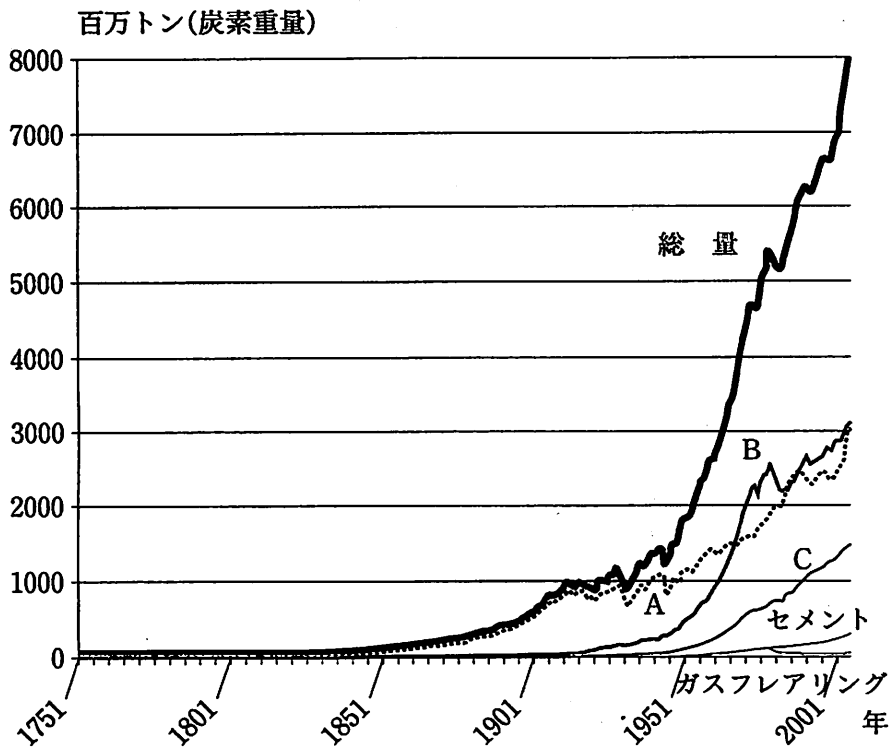


2010 2/8

〔I〕 エネルギー問題に関する次の①～⑩の各文は、「世界の化石燃料消費およびセメント製造にかかわる年次別二酸化炭素排出量(二酸化炭素換算)変化」を示した図中の化石燃料A、BまたはCに関するものである。各文はA～Cのいずれに該当するか、最も適切なものを選択し、その記号をマークしなさい。

- ① この化石燃料は、20世紀半ばから現在までの期間をみると、他の一つの化石燃料消費の変化傾向と類似している。ただ、それに比べると、発電などの原料として、地球温暖化防止や大気環境改善対策にかなり優れている。
- ② この化石燃料は20世紀半ば以降、急激に消費が伸びたが、この資源名を冠した経済ショックが生じて、その後の増加傾向は小さくなっている。
- ③ この化石燃料の使用期間は長く、産業革命や現在の先進国の工業化に貢献した。
- ④ この化石燃料は埋蔵量が豊富で偏在性が少ない。先進国以外では、中国とインドの消費の伸びが著しい。
- ⑤ この化石燃料は欧州や北米で消費が多く、主にパイプラインを通じて利用されている。欧州ではロシアへの依存度が高く、エネルギー安全保障の見地から、見直しがはじまっている。
- ⑥ この化石燃料の2006年末の確認埋蔵量は、この年の産出量で割ると可採年数はほぼ50年となる。中東諸国など埋蔵量は豊富であるが、近年、北海やインドネシアなどで資源の枯渇が目立ってきた。
- ⑦ この化石燃料の埋蔵量が多い国は、アメリカ合衆国、インド、中国、ロシアなどである。生産量の半分近くは中国で、アメリカ合衆国、インドが続く(2004年)。
- ⑧ この化石燃料は、生産量(2004年)、埋蔵量(2006年)のいずれもロシアが1位を占めている。
- ⑨ 一次エネルギーの供給構成(2004年)をみると、イギリスではこの化石燃料が最も低い比率を占めており、他の2種はほぼ同率となっている。
- ⑩ 日本の一次エネルギー供給のほぼ5分の1がこの化石燃料である。その輸入先第1位の国は、少なくとも1980～2005年についてはオーストラリアである。



2011 2/1

[ I ] 次のエネルギー資源に関する問(A)～問(J)について、該当するものを一つ選び、その記号をマークしなさい。

問(A) 一次エネルギーに該当しないものは次のいずれか。

(ア) 石炭 (イ) ウラン鉱 (ウ) 都市ガス

問(B) 石炭産出量が圧倒的に高いシェア(第1位)を示す国(2003～2006年)は、次のいずれか。

(ア) 中国 (イ) アメリカ合衆国 (ウ) オーストラリア

問(C) 石炭輸出量について圧倒的に高いシェア(第1位)を示す国は(2003～2005年)、次のいずれか。

(ア) 中国 (イ) アメリカ合衆国 (ウ) オーストラリア

問(D) 原油産出量について、3国が極めて高いシェアを持っている(2006～2008年)。3国に属さない国は次のいずれか。

(ア) クウェート (イ) アメリカ合衆国 (ウ) ロシア

問(E) 天然ガスの生産量および輸出量について圧倒的に高いシェアを示す国(2008年)は、次のいずれか。

(ア) ノルウェー (イ) アメリカ合衆国 (ウ) ロシア

問(F) 再生可能エネルギーに当てはまらないのは、次のいずれか。

(ア) 潮汐 (イ) 天然ガス (ウ) 薪・炭

問(G) 一次エネルギー供給の構成比(石油換算)で、「可燃性再生可能エネルギーおよび廃棄物」(CRW)が極めて低い国(2004年)は次のいずれか。

(ア) サウジアラビア (イ) インド (ウ) ブラジル

問(H) 世界各国の水力発電量を見ると上位4カ国のシェアがかなり高いことがわかる(1996～2006年)。この4カ国に属さない国は次のいずれか。

(ア) 中国 (イ) アメリカ合衆国 (ウ) ノルウェー

問(I) 世界各国の原子力発電量を見ると上位3カ国が継続的に高い値を示す(1996～2006年)。この3カ国に属さない国は次のいずれか。

(ア) イギリス (イ) アメリカ合衆国 (ウ) 日本

問(J) 世界各国の風力発電量を2005～2009年について見ると、二酸化炭素排出量世界1・2位を示す2国で発電量が飛躍的に増大している。この2国に当たらない国は次のいずれか。

(ア) 中国      (イ) アメリカ合衆国      (ウ) ドイツ